



特選 スカイブルー 雄雄しく聳ゆ彦根城

普光寺町 河合仙治

(評) 晴れたみ空に、市民が誇る国宝彦根城の雄姿、正に彦根市の伸び行く明日を暗示しているようで、句者自身の満ちるお心が伝わる味わい深き秀句と言えます。

入選 スカイブルー 宇宙に馳せる夢眩し

金沢町 浅野成子

(評) 人は、綺麗な空に何を思うでしょう。地球は今環境汚染温暖化戦火が続き、今に人は皆悲鳴をあげることでしょう。この地球の未来に樂園を求めて叡智は夢の実現へ……。

入選 思いやり 裏戸コンコン安否見に

犬上郡豊郷町 古川美保子

(評) 向う三軒両隣りは遠い昔になり、何かと言うと、「ブライバシー」壁が立ち塞がります。孤独死が悲しく増加しています。独居を見守る福祉社会へ一層の力を注ぎたいものです。

特選 為せば成る 未踏の峰に歩をしるす

田附町 大谷みつ子

(評) 先人も未来を背負う人々も、年齢に関係なく、やると決めた心意気、苦しい汗が智恵が努力が、きつと喜びの日を約束して呉れるものと思えます。

入選 化粧して 農衣休ませ旅路行く

鳥居本町 滝口寿美夫

(評) 農婦は、年中田畑に勤しみ、身心憩うことは大切です。今日は余所行着に口紅も濃く装い、楽しい一日に明日の英気を養うことでしょう。

特選 思いやり ゆずる心の美しさ

新海町 今堀敏子

(評) 思えば、人は誰しも、わがままままになる時が往々にしてありますが、思いやりは正に人間関係の潤滑油であり、譲る心が原点であろうと考えます。

入選 化粧して 母の里から雛の客

長浜市 勝木岩松

(評) 初めての女兒誕生を迎えた桃の節句でありましょう。孫の幸せと健やかな成長を願って里からお祝に、久々に娘や孫に逢う喜び、両親の深い情愛が伝わってくる、冠題との間も巧みな逸句です。

入選 思いやり ちよつと休んで行きましよう

東近江市 河崎 章

(評) 互いに絆を結び合う歳月を重ねたおふたりでありましようか。平易に詠まれた句の中に、ほのかな心温まる実感があり、お互いの愛情が満ち溢れ、優しい情感が虚飾なくまとめられています。

入選 化粧して ときめきのあり揚げ雲雀

大藪町 是沢 卓

(評) 冠句は冠題と付句との二句一章の詩であることを、この句から学ぶことが出来るのではないでしょうか。冠題と無縁にみえる付句の断定に、胸おどる表現は鮮烈であり着想の飛躍と構成はみごとであります。



佳作 為せば成る 老人パワーで村興し

稲部町辻 昭子

佳作 思いやり 無償の愛に生きる母

甲崎町 神崎 ひさ

佳作 化粧して どの児も同じ稚児の列

新海町 野田 市郎

佳作 化粧して ころと体リフレッシュ

甲田町 平田 政江

佳作 化粧して 嘘の自分で生きた過去

犬上郡甲良町 上野 初子

佳作 思いやり ひとつで輪になる世界の和

岡 町 宮地 学

佳作 為せば成る 岩をも通すその意気地

鳥居本町 北川 夏子

佳作 スカイブルー 大根の花また白し

後三条町 吉原 初美

佳作 化粧して 明治の家のよみがえり

宇尾町 金森光男

佳作 思いやり 回顧の念に涙する

近江八幡市 辻 孝

佳作 化粧して 偉容を誇る天守閣

新海町 野田 惣次郎

佳作 化粧して 涙をそっと仕舞い込む

鳥居本町 寺村美恵

佳作 思いやり 里の小包愛あふれ

犬上郡豊郷町 西山芳子

佳作 スカイブルー 万朶の桜競い合う

米原市 畑中公雄

佳作 化粧して 女の舞台艶に生く

犬上郡豊郷町 宮尾 良

佳作 為せば成る 老いを曲げ打つ初パソコン

古沢町 野淵令子

佳作 為せば成る 日々精進の積み重ね

上稲葉町 澤 佳子

佳作 スカイブルー 風も清やかに頬撫せて

蒲生郡竜王町 松瀬文恵

佳作 為せば成る 掌の豆みつめる逆上り

蒲生郡竜王町 松瀬博美

佳作 化粧して シミシワ歳までかくれんぼ

松原町 大塚 博

佳作 スカイブルー 白銀映える伊吹嶺

長浜市 近藤 甚一郎

佳作 思いやり 育ちが解る躰け糸

東近江市 小林 清次郎

佳作 思いやり 小さな拳肩を打つ

稲里町 藤野 千枝子

佳作 化粧して 稔る戀路を朝鏡

大藪町 寺阪 美智子

佳作 思いやり 言葉百より温き手を

田附町 大谷 貞三

佳作 思いやり 庇う子の傍いる温さ

田附町 佐々木 トミ

佳作 化粧して 子供歌舞伎の勇姿かな

東沼波町 木原 正

佳作 思いやり 悲喜わかち合う丸き背な

田附町 上田 文子

佳作 化粧して 殻を破って蝶になる

堀 町 河分 武士

佳作 思いやり 心をつなぐ導火線

稲里町 勝見 政恵

佳作 思いやり ゆっくりと押す車椅子

犬上郡豊郷町 元 持 きよ子

佳作 スカイブルー 飛翔のサイン待っている

稲里町 覇 流 不良者

佳作 為せば成る 天秤担ぎて財を成す

極楽寺町 古川 寛 二



《総評》

今年は応募くださった人数も総句数も昨年を上回り愛好者皆様のたゆまぬ意欲と情熱に敬意を表しますと共に大変嬉しく有り難く、併せ選をさせていただく重責を痛感いたし心より謝意申し上げます。今回も皆様からの熱句を、古株、西村両先生と共に、一句一句精読討議、精魂こめて選に当たらせていただきました。すでにお気づきと思いますが、今年は頭文字を「なおすけ」として四つの「冠題」が出されました。今回の三番目「す」は「スカイブルー」という清新な冠題が出され、思いつかれる十二文字にも新しい趣きを感じ受けるものが多くございました。併せてご投吟は、経験豊富な老練技法から新鮮味溢れた素直な句まで優れたものが多い中、何時も申し上げております通り、選に入る句数は総出句数の十八%という窄き門であり、秀吟であつても寸陰の差で選外の止むなきとなつた作品が、かなりの数にのぼるといふ辛苦の厳選でありました。今回投句のなかで、俳句調のものや、着眼点が同じ類型句も多く見受けられました。初心者の方もいらつしやると思いますので申し添えさせていただきます。冠句は題を発想源に季語・季題等にこだわることなく自由に関連して、付け句の「中七、下五の十二文字」にまとめていただく短詩です。まず冠題の五文字を、その持つ意味、要求しているものを自由に創造し、それらを処点として角度をかえたりひろげたりしてよく吟味し、充分かみしめてから、それにふさわしい事柄や場面を新しく興して、心の気持ちや風景の楽しさ、また身の周りで見つけた興味あることがらを、ひとつの絵や詩のように言いあらわ

し、聞いて「なるほど」「そうか」とうなずけるような、感動表現をする短いたのしい心の詩に詠んでいただければと思います。只冠題と付け句十二文字には「間^ま」という間隔が大切で、すぐ接続しない、標語調にならないように心がけて、創作心高く深くやさしく、どうぞ句友の皆さん、選外の方も紙ひとえ、めげることなく、来年もこぞつてご応募くださる事をお願い申しあげ拙いペンを置かせていただきます。

愚考短慮 今 井 三日月

選者吟

為せば成る 青き地球は 汚すまじ

思いやり 日陰の花に して置かず

古株 鏡水

スカイブルー 愚かな心 笑われる

西村 吟雪

化粧して 宝の城を 守り継ぐ

今井 三日月